

植 物 研 究 雜 誌

THE JOURNAL OF JAPANESE BOTANY

第十四卷 第三號 (通卷第百三十九號) 昭和十三年三月發行

こなはだ屬ニ就テ (其四)

山 田 幸 男

Yukio YAMADA: Notes on *Liagora* (IV)*Distenta-group.*7. みぞこなはだ (*Liagora Segawai*¹⁾ YAMADA)

體ハ石灰ヲ被ムルコトハ甚ダシクハナク、乾燥後ハ小粉ヲフク。生時甚ダ軟ク且ツ粘滑デ圓柱狀デアルガ乾燥標本ニ於テハ扁平トナリ且ツ所々淺キ溝狀ヲ呈スル。體ノ幅ハ基部ニ於テ 1-1.5 mm 許アリ、上部ニ向テ漸々ニ細クナル。主ナル枝ハ叉狀ニ分レ廣開シ“fastigate”デアル。小枝ハ屢々羽狀ニ發出シ、體ノ下部ニ於テハ相當ノ長サニ達スル。又體ノ上部ニ於テハ羽狀ノ枝ハ小サク軸ヨリ略々直角ニ副出スル。

中軸絲ヲ作ル細胞ハ圓柱狀デ兩端稍細マツタ形ヲナシ其徑ハ小枝ニ於テ約 50 μ 内外アリ、太イ枝ニ於テハ中軸類化絲ノ基部附近カラ出ル細イ假根狀絲ニヨツテカコマレテキル。類化絲ハ長サ約 240 μ 内外、5-6 回叉狀ニ、又上部ニ於テハ屢々三叉狀ニ分レ、上部ハ繖房狀ヲ呈スル。類化絲ノ細胞ハ下部ニ於テハ長ク略々圓柱狀デ兩端稍々細マリ、上部ニ向フニ從テ短クナリ、頂端近イモノハ太クナリ長橢圓形、長倒卵形等ヲナス。末端及ビソノ下邊ノ細胞ハ再ビ大サヲ減ジ卵形、稍々球形等ヲナス。

雌雄異株? 精子器ハ未知。造果枝ハ 3 細胞カラ成リ、曲リ、通常造果器ハ造果枝中ノ他ノ細胞ヨリモ大キク、直徑約 10-12 μ 許アリ、類化絲ニ側生スル。囊果ハ略々半球狀、密デ長イ分岐シタ總苞樣絲デカコマレル。果孢子ハ小サク長橢圓形乃至倒卵形デ大サ 5-7 $\mu \times 10-12 \mu$ 許アル。

產地: 琉球(沖繩島)、小笠原(父島)。

¹⁾ 本種名ハ本種ノ採集者タル下田三井海洋學研究所員理學士瀨川宗吉氏ノ名ニ因ム。

分布：特産。

本種ハ *L. distenta* (MERT.) AG. 並ニ *L. Wilsoniana* ZEH ニ稍々近似スル様ニ見エル。然シ *L. distenta* (MERT.) AG. ハ 4-5 細胞カラ成ル造果枝ヲ有シ、又 *L. Wilsoniana* ZEH ノ總苞様絲ハ分岐スルコトガナイノデ、内景ニ於テモ本種ト明ニ區別サレル。

8. こなはだ (*Liagora ceranoides* LAMX.—Hist. Polyp. corallig. flex., 1816, p. 239; J. AG., Spec. Alg., vol. 2, 1852, p. 426; HOWE, in BRITTON & MILLS-PAUGH's Bahama Flora, 1920, p. 555; BÖRGESSEN, Mar. alg. Canary Isl., vol. 3, 1927, p. 58)

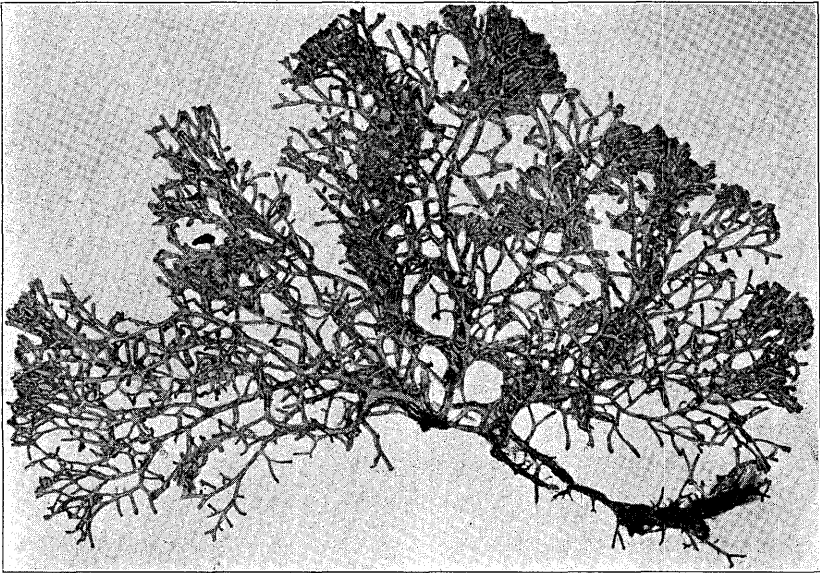


Fig. 23. *Liagora ceranoides* LAMX. こなはだ (×2/3)

體ハ 10 cm 内外高ク、圓柱狀、太イ所デ直徑約 1.5 mm 位アリ、可成リニ強ク石灰質ヲ沈澱シ乾燥後ハ小粉ヲ吹イタ様ニナル。主ナ枝ハ繰返シ叉狀ニ分ル、枝ヨリ側方ニ發スル副枝ヲ多數ニ有スルモノ (*f. pulverulenta* m.) ト然ラザルモノ (*f. leprosa* m.) トガアル。

中軸ヲ作ル細胞絲ハ約 50-100 μ ノ直徑ヲ有シ其間ニ細イ徑約 20 μ 内外ノ假根様ノ細胞絲ガ走ル。類化絲ハ數回叉狀ニ分レ、上部ニ於テハ稍々繖房狀ヲ呈スル。之ヲ形成スル細胞ハ下部ニ於テハ圓柱狀デ細ク、上部ニ至レバ太クナリ

且短カクナリ、卵形、球形等ヲ呈スルニ至ル。

本種ハ雌雄同株デ、精子器拖ハ類化絲ノ頂端ニ生ジ繖房狀ニ集マツテキル。造果器ハ通常4細胞カラ成リ、時ニ5細胞又稀ニ3細胞カラ出來テキテ、徑ハ 15μ 内外アリ、幾分曲ツテキル。囊果ハ稍々疎ナ總苞様枝デ圍マレテキル。次ノ2形ヲ區別シウル。

I. こなはだ *α. pulverulenta* (C. Ag.) m.

Syn. *L. pulverulenta* C. Ag.—Spec. alg., vol. 1, 1821, p. 396.

產地：九州(五島・天草)、臺灣(澎湖島)。

分布：マレー諸島、オーストラリア、紅海、西印度諸島。

II. あをこなはだ *β. leprosa* (J. Ag.) m.

Syn. *L. leprosa* J. Ag.—Alg. Liebm., p. 8; YENDO, Notes on alg. new to Japan (Bot. Mag. Tokyo, vol. 30, 1917) p. 75.

產地：九州、臺灣(海口)。

分布：メキシコ大西洋岸、フレンドリー島。

9. きぶりこなはだ (*Liagora decussata* MONTAGNE—Ann. Sci. Nat., Bot., 1849, p. 64)

體ハ高サ18 cmニ達シ、圓柱狀デ小圓盤狀部デ地物ニ附著シテキル。體ノ太サハ基部附近デ徑約1.5 mm許、莖ト云フ部ハ殆ドナクテ直チニ多數ノ主枝ヲ發スル。各主枝ハ多數ノ小枝ヲ各方面ニ羽狀ニ發スル。之等ノ小枝ハ屢々對生シ所謂“decussate”デアル。小枝ハ單一ナコトアリ又更ニ小々枝ヲ發スルコトモアル。小枝ハ先端附近ニ於テハ石灰質ヲ缺キ紫褐色ヲ呈スル。又兩端ニ向テ細マリ、ソノ基部ニ於テモ多クハ石灰質ヲ缺イテキル。體ノ各部ニ於テ石灰質ハ肉眼デ見タ所デハ略々滑澤デアル。

中軸ヲ形成スル細胞絲ハ概シテ細ク、徑8–15 μ 許アリ。類化絲ハ3–5回程又狀ニ分岐シ、下部ノ細胞ハ圓柱狀デアルガ上部ニ行クニ從テ細胞ハ短カク且ツ縊レテ來、末端ノ細胞ハ通常ソレヨリ下部ニアル2–3ノモノヨリモ幾分大形デ西洋梨形ヲ呈シ長サ8 μ 内外アリ、毛狀ノ突起ハ見ラレナイ。

本種ハ雌雄異株デ藏精器ハ類化絲ノ頂端ニ生ジ繖房狀ヲ呈スル。造果枝ハ3細胞カラ成リ、小サク甚ダシク屈曲シテキル。囊果ハ細イ絲狀ノ總苞様絲デ包マレテ居リ、ソノ基部ニハ柔組織様ノ組織ガ見ラレル。

產地：臺灣(臺東)。

分布：サンバンサン島、グアデループ島、ジャマイカ島。

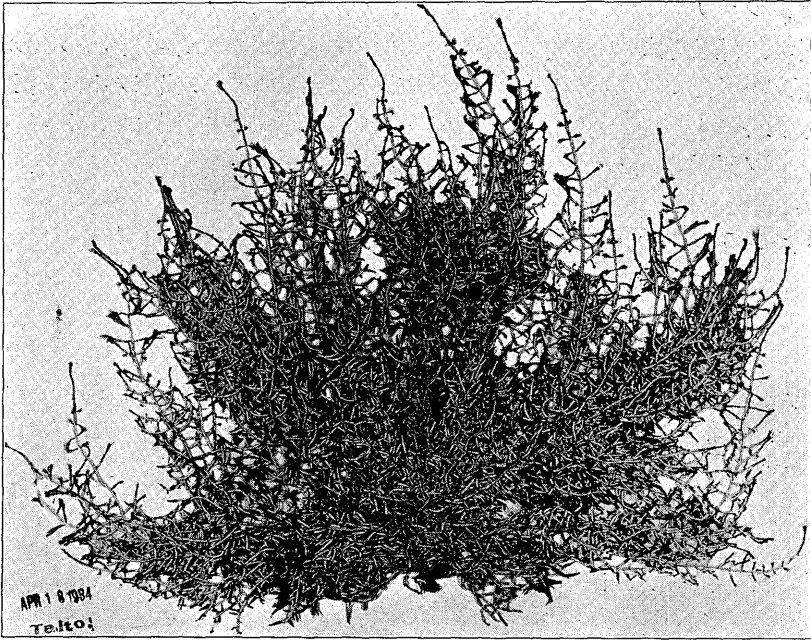


Fig. 24. *Liagora decussata* MONT. きぶりこなはだ (縮小)

Sect. III. **Farinosæ.**

10. けこなはだ (*Liagora farinosa* LAMX.—Hist. Polyp., 1816, p. 240; HOWE, in BRITTON & MILLSPAUGH'S Bahama Flora, 1920, p. 554)

Syn. *L. elongata* ZANARD., Alg. nov. vel minus cognit. in Mar. rub., 1851, p. 35, Plant. Mar. rub., 1858, p. 66, tab. 4, fig. 1.

L. Cheyneana HARVEY, some account of mar. bot. West Austr., 1855?, p. 552.; WEBER van BOSSE, Liste alg. Siboga, vol. 2, 1921, p. 200.

L. hirta HARVEY et BAILEY, Proc. Boston Soc. Nat. Hist., 1851, p. 373.

L. lurida DICKIE, Alg. Mauritius, 1873, p. 195.

L. crassa DICKIE, l.c. p. 195.

L. Cayohuesonica MELVILL, Notes mar. alg. South Carol. and Florida, 1875, p. 262.

L. farionicolor MELVILL, l.c. p. 263.

體ハ柔軟粘滑デ通常赤褐色ヲ呈シ、石灰質ハ類化絲ノ上部ニハ沈澱シナイノ

デ、表面ハ稍々短カイ毛デ被ハレル様ニ見エル。體ノ大サ、分岐ノ法等ハ非常ニ變化ガ多イガ通常 15 cm 位ノ高サ、最モ太イ基部ニ近イ邊デ 2-3 mm ノ直径ヲ有スル。生時ハ圓柱狀デアルガ乾燥スルト扁平トナリ又溝狀ヲ呈スルコトモアル。分岐法ハ叉狀デアルガ時ニ叉狀様羽狀ヲ呈スルコトガアリ、此ノ間ニハ種々ノ中間形ガアル。又 *f. pinnatiramosa* m. ト稱スル小笠原産ノモノデハ明カナ羽狀分岐ヲナシテキル。主ナル枝カラ側面ヘ發スル短イ副枝モ存在スルモノトシナイモノトガアリ夫等ノ間ニモ移行形ガアル。枝ノ先端ハ凡テ鈍圓デアル。

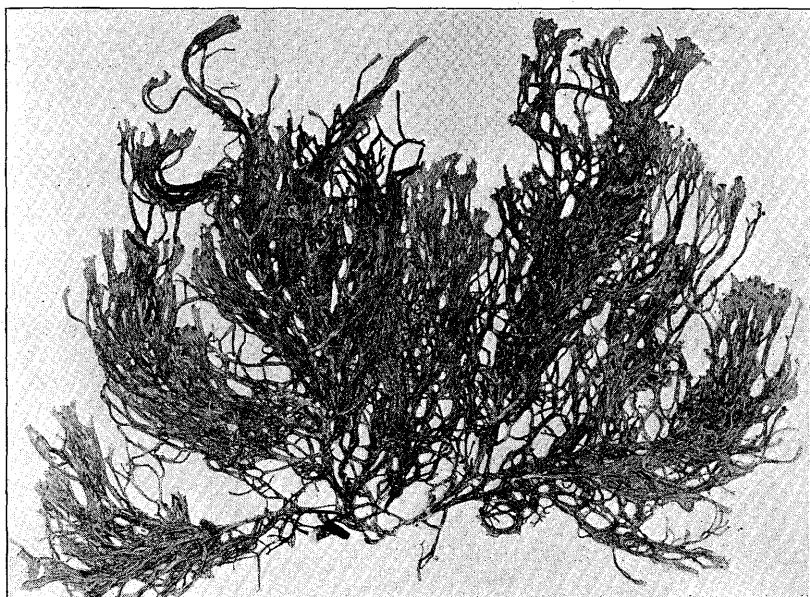


Fig. 25. *Liagora farinosa* LAMX. けこなはだ（縮小）

中軸ハ圓柱狀若シクハ幾分麥酒樽形ニ膨レタ細胞ノ縦列ト其間ニ縦ニ走ル細イ假根狀ノ絲カラ成リ、此等ノ直径ハ各 70-80 μ 前後及ビ 7-8 μ 内外デアル。類化絲ハ長サ 150 μ 内外デ、略々圓柱狀ノ細胞カラ成リ、基部モ上部モ太サハ殆ド變ラナイデ徑約 15 μ 内外アリ、時ニ上部ノ方ガ幾分太クナツテキル。各細胞ハ兩端ニ於テ縊レテキルガ決シテ強く縊レルコトハナイ。又所々叉狀又ハ不規則ニ分岐スルガ、先端附近デ繖房狀ニ分岐スルコトハナイ。又頂端細胞上ニハ毛狀ノ突起ハ見當ラナイ。

我邦産ノモノハ雌雄別株デアル。精子器抱ハ類化絲ノ頂上ニ生ジ、小頭狀ヲナシ大サハ略々長サ約 70 μ 、横徑ハソノレヨリ稍々短イ位デアル。又造果枝ハ

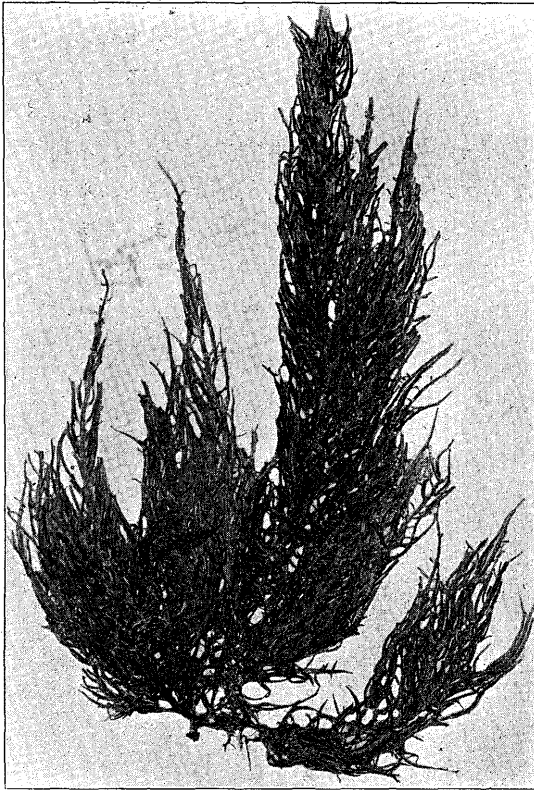


Fig. 26. けこなはだノ一形 (縮小)

BÖRGESSEN 氏ニヨルト西印度産ノ標本ニ於テハ毛狀突起ハ常ニ若イ類化絲ノ頂端ニ見ラレルト云ヒ、又雌雄同株デアルト云ヒ、又中軸絲ノ太イモノハ徑 150μ ヲ超エルト云フ。然ルニ我邦ノモノデハ上述ノ様ニ毛狀突起ハ見當ラズ、雌雄異株デ、中軸絲ノ太サハ $70-80\mu$ 位ニ過ギナイ。然シ此等ノ性質ハ本屬ニ於テハ甚ダシクハ決ツテ居ラス事ガアリ、特ニ雌雄同株、異株ノ關係ハ常ニ嚴重ニハ決ツテ居ナイ様ニ見エル節モアルノデ、寧ロコレハ甚ダシク變化スル同一種ト見做ス方ガ適當ト思ハレル。尙 *f. pinnatiramosa* m. ニハ “monosporangial discs” ガ見ラレル。

4-5 細胞カラ成リ、徑 14μ 位、殆ド眞直グデアル。囊果ハ總苞様枝デ包マレ造胞絲ハ短カク、果胞子ハ大キク、西洋梨形又ハ幾分長目デ、長サ 35μ 内外アル。

產地：紀州(瀬戸)、土佐(柏島)、薩摩(飩島)、琉球(那覇・與那國島)、臺灣(海口・大板埤・火燒島)、小笠原島。

分布：太平洋溫熱帶各地、紅海、カナリヤ群島、西印度諸島。

本種ハ上述ノ様ニ分布モ廣ク又外形等モ著シク變化スルガ、特徴アル類化絲並ニ小頭狀ノ精子器托ニヨツテ他ノ種カラ明ニ區別サレル。然シ我邦産ノ標本ニ於テハ外國産ノ記載ト異ナル點ガ二三見ラレル。即チ

11. はねこなはだ (*Liagora pinnata* HARVEY—Ner. Bor. Amer., part 2, 1853, p. 138, Pl. 31, B.; BÖRGESSEN, Mar. alg. Dan. West-Ind., vol. 2, 1915, p.

74; YAMADA, Notes on Japan. alg. V, 1933, p. 283)

體ハ柔軟粘滑デ
高サ 10 cm 内外、
圓柱狀デ太サ 1
mm 許アリ、明ニ
複總狀ニ分岐シ、
小枝ノ先端ハ鈍圓
デアル。石灰質ハ
可成リニ沈澱シ乾
カスト小粉ヲ吹イ
タ様ニナル。

中軸ヲ作ル細胞
ハ太イモノハ徑
70 μ 内外アリ、ソ
ノ間ヲ走ル細イ細
胞絲ハ徑 8 μ 許ア
ル。類化絲ハ 350 μ
内外長ク、3-4 回
叉狀ニ分岐スル。
細胞ノ太サハ下部
モ上部モ餘リ變ラ
ズ約 14 μ 許アリ、

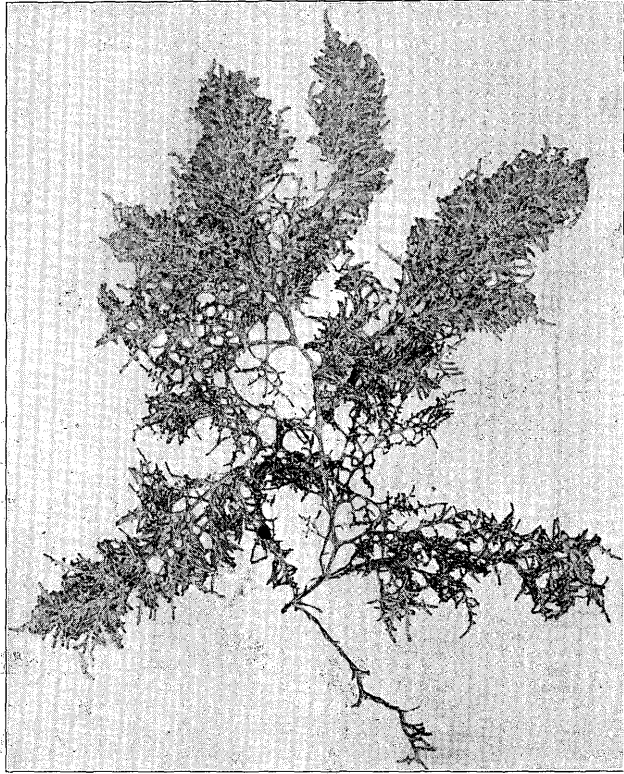


Fig. 27. *L. pinnata* HARV. はねこなはだ ($\times 2/3$)

時ニ上部ノモノガ稍々太クナツテキル。各細胞ハ境目ニ於テ稍々縊レテ居リ、
先端ハ丸ク毛狀突起ハ見當ラナイ。

本種ハ雌雄同株デ精子器拖ハ類化絲ノ頂端カラ 2-3 個下部ノ細胞ノ周圍ニ小
塊トシテ生ジ、或ハ同ジク頂端カラ 2-3 個下部ノ細胞カラ側生スル短カイ小枝
頂ニ生ジ、決シテ類化絲ノ頂端細胞上ニ生ズルコトハナイ。造果枝ハ 4 細胞カ
ラ成リ少シク屈曲シテキル。囊果ハ比較的疎ナ總苞様枝デ圍マレ、果孢子ヲ生
ズベキ所ニ“四分孢子”ヲ生ズル。孢子ハ通常十字狀ニ分割サレルガ時ニ略
々三角錐狀ヲ呈スルコトガアリ、又不規則ニ 5-6 個ニ分割サレルコトモアル。

產地： パラオ島 (マルキョク)、小笠原島？、プラタス島？。

分布： 西印度諸島。

上ノ記載文デ見ル通り我邦ノモノハ西印度産本種ノ記文ト非常ニ能ク一致シ

恐ラク同種ナル事ハ疑ハレナイ。然シーツノ著シイ違ヒハパラオ産ノモノニ於テハ“四分孢子”ヲ生ズル事デアツテ、此點今迄ノ本種ノ記文ニハ全然見當ラズ又 Howe氏等採集ノ西印度産ノ標本ヲ檢シテモ見ル事ハ出來ナイ。然シ此ノ屬ニ於テ四分孢子ヲ生ズル性質ハ種ヲ分ツ程シカク重大ナル性質デアラウカ？今迄ニハ四分孢子ハ唯 *L. tetrasporifera* BÖRG. ノミニ知ラレテキルニ止マリ、非常ニ重大ナ性質ト思ハレテキルガ上述ノ様ニ（十四卷8頁参照）其他ノ種ニ於テモ存在スルコトガアルカラ、唯四分孢子ヲ生ズルカ生ゼヌカデ、他ノ性質ハ完全ニ一致スルノニコレ等ヲ別種トスルコトハ聊カ冒險ノ様ニ思ハレル。デアルカラパラオ島産ノ標本モ今後何カ他ノ性質ガ四分孢子形成ト伴ツテ之ヲ生ジナイモノカラ異ツテキルコトガ判明スル迄本種トスル方ガ良イト思ハレル。

12. ふくれこなはだ (*Liagora clavata* m.)

體ハ甚ダ柔軟デ、粘滑度強ク、沈澱セル石灰質ノ量ハ尠イ。アルコール中ニ

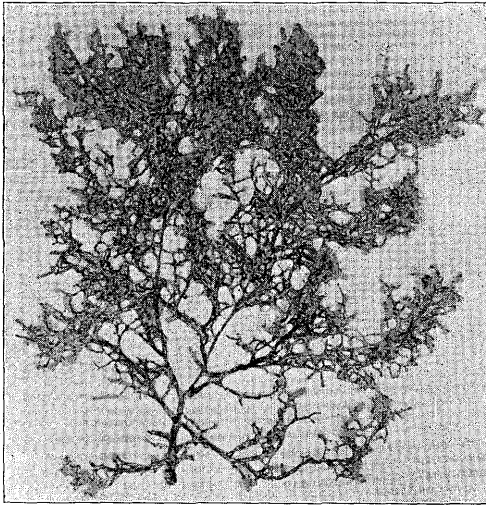


Fig. 28. ふくれこなはだ (縮小)

保存シテアル標本デ見ルニ、末端小枝ノ先端ニ於ケル石灰質ハ蜂窩狀ニ沈澱シテキル。分岐ハ複總狀デ末端小枝ハ 5-7 mm 長ク明ニ棍棒形ヲナシテキル。

中軸ハ體ノ上部ニ於テハ直径 50 μ 又ハソレヨリ幾分細イ。圓柱狀ノ細胞ガ一列ニ竝ンデ生ジタ細胞列ガ縦ニ平行ニ集マリ走ツテキルモノデ出來テキル。類化絲ハ 350-450 μ 長ク、通常 4-5 回又狀又ハ三又狀ニ分岐スル。而シテソノ分岐ノ場所ハ類化絲ノ下部ニ於テモ上部ニ於テモ略

々同様デアル。類化絲ヲ作ル細胞ハソノ下部ニ於テハ圓柱狀デ 10-16 μ ノ徑ヲ有スル。然シ上部ニ於テハ細胞ハ漸々短クナリ通常麥酒樽形トナリ、徑 16-22 μ 位トナル。頂端ニハ毛狀ノ細胞ハ見ラレナイ。

本種ハ恐ラク雌雄異株カト思ハレ標本ハ何レモ雌ノ個體デ、從テ精子器ハ不明デアル。造果枝ハ 4 細胞、稀ニ 5 細胞カラ成リ、幾分曲リ、20 μ 内外ノ徑ヲ有シ、類化絲ノ中央部附近ノ一細胞ノ側面ニ生ズル。囊果ハ比較的緩クカタマ

ツダ造胞絲ヲ有シ、稍々半球狀ヲ呈シ、總苞様枝ヲ除イテ徑ハ 100μ 内外アル。總苞様枝ハ明カデ發達良ク類化絲ト殆ド同ジ徑ヲ有スル。果胞子ハ倒卵形デ $20-25\mu$ ノ長サヲ有スル。

產地：琉球（宮古島）。

分布：特産。

本種ノ標本トシテハ約2尋ノ深サノ岩上カラ採取シタモノガ3個アルノミデアル。本種ノ精子器拵ハ不明デアルガ Sect. *Farinosæ* ニ入レラルベキモノト思ハレ又ハねこなはだノ附近ニソノ分類學的位置ヲ占メルモノト考ヘラレル。

本種ノ類化絲ノ間ニハ多數ノ “monosporangial discs” ガ見ラレル。

Sect. IV. *Mucosæ*.

13. むるはだ (*Liagora mucosissima* m.)

體ハ甚ダシク柔軟粘滑デ石灰質ノ量ハ餘リ多クナイ。ソノ爲乾燥後ハ紙ニ密著スル。高サ約 15 cm. ニ達シ徑ハ略々 1 mm 位、下部モ上部モ太サニ大シク變



Fig. 29. *Liagora mucosissima* YAMADA むるはだ ($\times 2/3$)

リハタイ。枝ハ複總狀デ密ニ分歧シ、枝又枝ヲ分ケテ最後ノ小枝又ハソノ前ノ小枝ハ一體ニ短カク稍々鈍刺狀ヲナシ甚ダ短イモノハ疣狀ヲ呈スル。

中軸部ハ太イ圓柱狀細胞カラ成ル細胞列ト、ソノ間ニアル細イ細胞列トカラ

成り、前者ノ徑ハ約 $60-90\mu$ アリ、體ノ上部ニ於テハ假根狀絲ハナイ。類化絲ハ長サ $300-500\mu$ 、數回叉狀又ハ稀ニ三叉狀ニ分岐スル。下部ノ細胞ハ一般ニ長ク、圓柱狀ヲナシ境目ニ於テ稀ニ縊レテキル。上部ニ行クニ從ヒ細胞ハ短ク太クナリ、橢圓形、倒卵形、球形等トナリ、末端ノモノハ屢々細イ毛狀突起ヲ頂イテキル。毛ノ先端ハ稍々膨ランデ棍棒形ヲ呈スル。

此種ハ恐ラク雌雄異株ト思ハレ雄精子器ハ未知デアル。造果枝ハ多ク4細胞カラ成り、時ニ5又ハ3細胞カラ成り幅ハ $15-22\mu$ 許、類化絲ノ下部ニ於テ側生又ハ稍々頂生シ、眞直グデ殆ド曲ルコトハナイ。囊果ハ稍々球狀又ハ稍々半球狀デコレヲ被フ總苞様枝ハナク裸デ、唯囊果ノ下部ハ短イ、2-3細胞カラ成ル絲ガ柄ニ沿フテ下ルニ過ギナイ。胞子ハ略々橢圓形、西洋梨形、又ハ長卵形デ大キサハ $46\mu \times 24\mu$ 内外アリ或ハ時ニ幾分ソレヨリ大デアル。

產地：琉球(宮古島)。

分布：特産。

本種ハ Baham 島産ノ *L. mucosa* HOWE, *L. pedicellata* HOWE ノ兩種ニ、體ノ粘度ノ強イ點、稍々頂生デ眞直グナ造果枝、並ニ總苞様枝ノナイ裸ノ、シカモ大形ノ胞子ヲ生ズル囊果等ニ於テ能ク似テキル。然シ前者トハ分枝ノ法小枝ノ形狀等ニ於テ異リ、又後者トハ造果枝ノ基部ノ柄細胞ノ有無ニヨツテ區別サレル。然シ乍ラ本種ハ後者トハ極メテ近似ノ種ノ様ニ思ハレル。

14. しまこなはだ (*Liagora formosana* m.)

體ハ甚ダ柔軟デ粘滑、15 cm 高ク、1 mm 内外ノ徑ヲ有スル。總狀ニ分岐シ、末端小枝ハ鈍圓デアル。石灰ノ量ハ比較的尠ク、乾燥後體ノ表面ハ粗ニ粉ヲ吹イタ様ニナル。

中軸ノ細胞絲ヲ作ル細胞ハ長イ圓柱狀デ $10-20\mu$ ノ徑ヲ有スル。類化絲ハ $350-500\mu$ 長ク、4-5回叉狀分岐ヲナシ、ソノ下部ニ於テハ分岐スルコト尠ク、細胞ハ長ク略々圓柱狀、 $3-6\mu$ ノ徑ヲ示ス。又ソノ上部ニ於テハ屢々叉狀ニ分レ、細胞ハ短ク卵形トナリ、 $15 \times 10\mu$ 内外ノ大サヲ示ス。末端ノ細胞ハ屢々毛狀ノ突起ヲ具ヘテキル。

造果枝ハ類化絲ノ下部ノ細胞ノ内膨レタ細胞ノ側面ニ生ジ、稍々屈曲シ、2-3細胞デ出來テキル。ソノ太イ所ノ徑ハ $10-16\mu$ アル。囊果ハ半球狀デ造胞絲ハ密ニ集リ、徑 $90-160\mu$ アル。總苞様枝ハソノ發達不完全デ或ルモノハ下方ニ向ヒ、或ルモノハ多小上方ニ向フ。果胞子ハ卵形デ徑 8μ 内外アル。精子器ハ類化絲ノ末端細胞ノ上ニ群生スル。

產地：臺灣(臺東)。

分布：特産。

本種ハ遺憾乍ラ唯2個ノ標本ノ海岸ニ打寄セラレタノヲ採集シタニ止マリ、如何ナル場所ニ生育スルモノカハ不明デアル。上ノ記文ハソノ内ノ1個ニ基イ

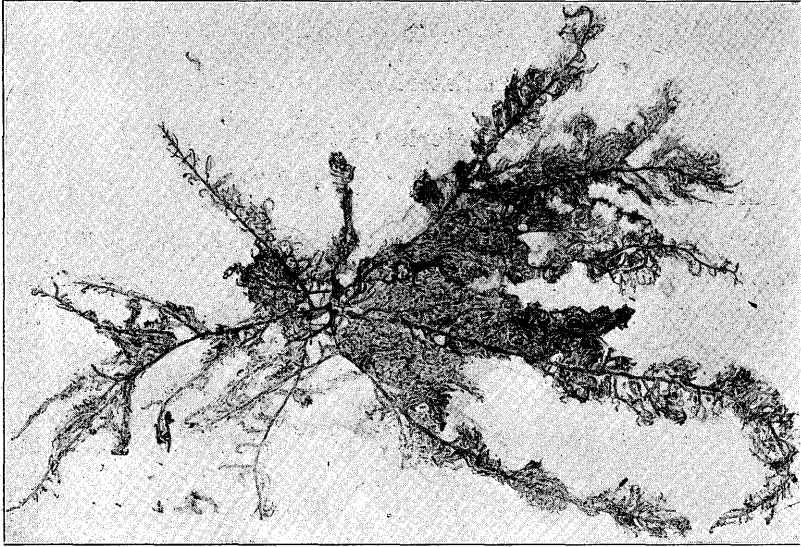


Fig. 30. *Liagora formosana* YAMADA しまこなはだ(縮小)

タモノデアルガ、残りノ1標本モ恐ラク同種ノモノト思ハレル。而シテ前者ハ雌ノ個體デ後者ハ雄ノ個體デアリ、從テ此ノ種ハ雌雄異株ト思ハレル。

本種ハ Sect. *Mucosae* ニ屬スルモノデソノ内 *L. mucosa* HOWE ニ近似スルコトハ疑ナイ。シカシ *L. mucosa* HOWE ト異ナル點ハ、1) 造果枝ヲ作ル細胞ノ數ガ本種ニ於テハ彼ヨリモ尠イコト、即彼ニ於テハ4細胞デアルニ反シテ本種ニ於テハ2-3細胞デアルコト、2) 果孢子ノ小ナルコト、即 *L. mucosa* HOWE ニ於テハ $25-32\mu$ トアルニ對シテ本種ニ於テハ長サ 8μ 内外デアルコト、3) 類化絲ハ本種ニ於ケル方ガ彼ヨリモ長イ點等デアル。(完)